

# 桶川版スーパーシティ： コンパクト・プラス・ネットワーク 地域まちづくり計画



令和6年6月

桶川市

# 取組の概要

## まちづくりにおける課題

本市は、JR高崎線桶川駅を中心に同心円状に都市化した歴史をもち、人口減少や少子高齢化など社会環境の変化に起因する課題も地区によって差異がみられます。

今後、「社会環境の変化に適応した持続可能なまち」の実現に当たり、中心市街地の「賑わい」の創出や、人口減少・少子高齢化を見据えた「地域づくり」、「強さ」と「しなやかさ」を備えた強靱なまちづくり、コロナ禍など社会環境の「変化を力」に変えるまちづくりを推進する必要があります。

## まちづくりの方向性

市域を5つの圏域に分け、地区の特性に応じて商業、業務サービス、芸術文化、生涯学習などの充実を図る「都市拠点」、日常生活に必要な施設の立地誘導を図る「地域生活拠点」、生涯学習や市民交流などの機能の充実を図る「コミュニティ拠点」を配置します。

これらの拠点間を公共交通ネットワーク等でつなぐことで、コンパクト・プラス・ネットワークの実現を目指します。

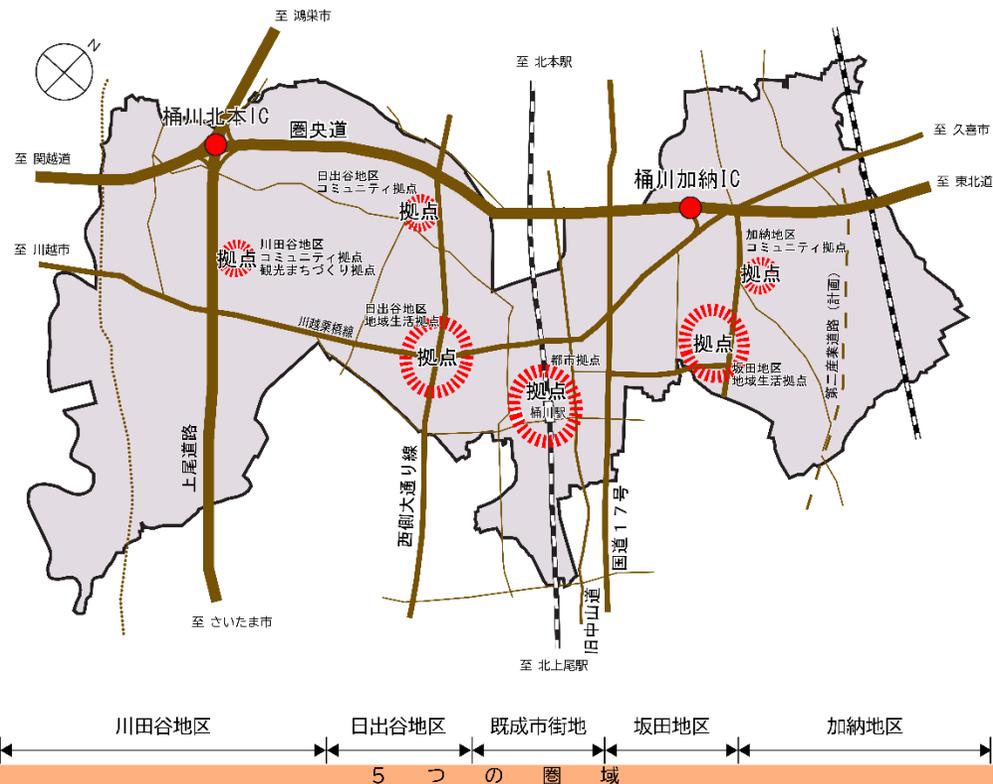
また、圏央道IC周辺における企業誘致や上尾道路沿道における道の駅の整備を推進し、地の利をいかした地域力と防災力の向上を図ります。

## 他の計画における位置付け

- ・桶川市第六次総合計画
- ・桶川市都市計画マスタープラン
- ・桶川市立地適正化計画（令和7年度公表予定）

## 対象地域の位置及び区域

桶川市全域（5つの圏域と拠点配置図）



## 地域の現況

### 人口・世帯の状況

本市の人口は、平成23年1月の75,987人をピークに、以降概ね75,000人台で推移していましたが、令和6年1月には74,448人となり、緩やかな減少局面を迎えています。

世帯数は、平成23年1月の30,080世帯から令和6年1月には34,023世帯となり、約13.1%増加しています。

年齢3区分人口は、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が占める割合が大きく減少する一方で、老年人口（65歳以上）が占める割合が年々増加しています。

人口推計は、令和14年には71,397人となる見込みで、高齢化率は、令和5年の29.9%から令和14年には30.3%まで増加する見込みとなっています。

### 地域交通の状況

本市は都心から40km圏に位置し、市域の中心部をJR高崎線が縦断しています。桶川駅から都心まで約1時間でアクセスすることができます。

また近年は、市域の北部を横断する圏央道や市西部の上尾道路（国道17号バイパス）など広域幹線道路が整備され、国道17号や県道川越栗橋線などと合わせ、広域交通網の要衝となっています。

市内の公共交通ネットワークについては、民間事業者による路線バス等の運行に加え、公共交通空白地帯の解消や高齢者等、交通弱者に対する移動手段の確保などを目的とし桶川市内循環バス「べにばなGO」を運行しています。

### 開発の状況

本市は、昭和40年代からの人口急増期にあわせ桶川駅を中心に同心円状に宅地開発が進みました。このため、駅を頂点として都市的土地利用の割合が高くなる一方、駅から離れるほど自然的土地利用の割合が高くなります。

駅周辺の既成市街地とその両翼に広がる新市街地の坂田地区と日出谷地区が概ねDID地区と重なり、市域の人口の約8割が集中しています。

### 地域資源

本市は、江戸時代には米や麦、紅花などの集散地として物流機能を担い、中山道6番目の宿場町として栄えました。大麦は“桶川麦”、紅花は“桶川臙脂（えんじ）”としてその名を全国に知られ、「最上紅花（山形）」に次ぐ全国で2番目の生産量を誇っていました。

現在も、紅花は市民の花として親しまれており、6月下旬のべに花まつりでは、毎年市内外から多くの方が訪れています。べに花まつりでは、当市の生乳を使用した「桶川牛乳」など市内の様々な農畜産物が販売されており、市内の農畜産物をPRする機会となっています。

本市では他にも、春のふれあいフェスタ（毎年5月）や祇園祭り（毎年7月）、市民まつり（毎年11月）、ふるさと祭り（毎年11月）など様々なお祭りが開催され、交流や賑わいの場となっています。

# まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

## まちづくりのコンセプト

今後一層進展する人口減少と少子高齢化による社会環境の変化に適応した持続可能なまちづくりを推進します。

市域を5つの圏域に分け、地域特性に応じた拠点を配置し、各拠点間を公共交通ネットワーク等でつなぐことで、誰もが安心して、快適に暮らし続けることができる「歩いて暮らせるまちづくり」を進め、「集約型都市構造」の形成を図ります。

- ◆都市拠点に位置する桶川駅東口では、ターミナル機能の向上を図るため、東口駅前広場や駅東口通り線など都市基盤整備を推進します。
- ◆近傍に位置することぶき広場（旧桶川南小学校跡地）及びその周辺市有地は、社会環境や市民のニーズに即した利活用を図ります。
- ◆日出谷地区におけるコミュニティ拠点では、地域の交流や子育て支援など地域のニーズに即した利活用を図ります。
- ◆広域幹線道路が整備されたことを踏まえ、圏央道IC周辺における企業誘致や上尾道路沿道における道の駅「べに花の郷おけがわ」の整備など「広域交通網をいかすまちづくり」を推進します。
- ◆多様化・複雑化する行政需要に適切に対応するため、民間企業の知見をいかす官民連携手法の導入や行政サービスのデジタル化などを推進します。

## 推進体制

「桶川版スーパーシティ:コンパクト・プラス・ネットワーク」を実現するため、事業のプロジェクト毎に庁内関係課による会議体や調整の場を設け、円滑な事業の進捗を図ります。

また、外部有識者により構成する桶川市デジタル田園都市構想総合戦略有識者会議や、連携協定を締結する大学、民間企業などと事業を推進します。

## 事業全体の概要

【コンパクト】拠点づくりにおける中心市街地の賑わいや地域力の向上

- ◆東口駅前広場や駅東口通り線の整備を推進するとともに、西口駅前広場の交通需要に応じた改善など、都市拠点におけるターミナル機能の向上に取り組みます。
- ◆市有地となることぶき広場（都市拠点）や分庁舎跡地（日出谷地区コミュニティ拠点）において、官民連携手法の導入など民間企業の知見とノウハウを活用した施設づくりに取り組みます。
- ◆駅西口公園において、市民ニーズや社会環境の変化に応じた既存機能の拡充や向上を図ります。
- ◆市民ニーズや社会環境の変化に応じ、既存の公共機能の拡充など拠点機能の充実を図ります。
- ◆市内の各拠点を結ぶ公共交通ネットワーク等の充実を図るとともに、都市基盤となる都市計画道路の整備など、生活軸の充実に取り組みます。

【スマート】未来技術の実装による付加価値向上

- ◆デジタル技術（デジタルサイネージや公共施設の利用予約システム等）の実装による利用者への質の高いサービスの提供や管理運営の省力化、コスト縮減に取り組みます。

【レジリエント】強靱性を備えた防災力の向上

- ◆日出谷地区のコミュニティ拠点では、再生可能エネルギーや蓄電池の導入、災害時を見据えた備品のストックなどによる防災力の向上に取り組みます。
- ◆その他の拠点施設では、施設のリニューアル等の機会に、再生可能エネルギーや蓄電池の導入、災害時を見据えた備品のストックなどによる防災力の向上に取り組みます。
- ◆圏央道桶川北本ICのポテンシャルを活かした企業との連携及び道の駅「べに花の郷おけがわ」の整備による地域力、防災力の向上に取り組みます。

# 桶川版スーパーシティ プロジェクト推進イメージ

・圏央道桶川北本ICのポテンシャルを活かした企業との連携による防災力の向上

・道の駅「べに花の郷おけがわ」の整備による地域力と防災力の向上

・生涯学習・市民交流・子育て支援機能の導入による地域力と防災力の向上  
 ・民間活力を導入した拠点づくり



・ことぶき広場を活用した拠点整備による中心市街地の賑わいづくりと地域力の向上  
 ・民間活力を導入した拠点づくり  
 ・都市基盤整備によるターミナル機能の向上



 ・既存公共機能の拡充による拠点機能の充実等

・市内循環バス等の公共交通により各拠点をつなぐ

※イメージ図等は現時点の想定であり、変更となる場合があります。

# 【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考	
			R6	R7	R8	R9	R10	R11以降		
都市拠点におけるターミナル機能の向上	県・市	東口駅前広場や駅東口通り線の整備を推進するとともに、西口駅前広場の交通需要に応じた改善を図り、都市拠点におけるターミナル機能の向上に取り組みます。	 						<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資本整備総合交付金</li> <li>・県事業との連携（駅東口通り線・仲仙道線）</li> </ul>	
ことぶき広場（旧桶川南小学校跡地）等整備事業	市・民間企業等	ことぶき広場や周辺の市有地において、都市拠点として相応しい機能の集積に向け、社会環境や市民ニーズなどを踏まえ、施設整備に取り組みます。								
日出谷地区公共施設等整備事業	市・民間企業等	日出谷地区のコミュニティ拠点において、生涯学習・市民交流・子育て支援機能を備えた官民連携による公共施設等の整備に取り組みます。							<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金</li> </ul>	
社会環境、市民ニーズに即した拠点機能の充実	市	地域の交流・活動や生涯学習、子どもの居場所や相談、多世代交流など、生活利便性の向上を図りながら拠点機能の拡充に取り組みます。								<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなこども支援活動拠点整備促進事業補助金</li> </ul>
公共交通ネットワークの向上	市	市内の各拠点を結ぶ公共交通ネットワークの充実を図るとともに、都市基盤となる都市計画道路等の整備に取り組みます。								





# K P I

コンセプト	指標	基準値（調査時点）	目標値（達成年度）	備考
コンパクト	5つの圏域における拠点施設の整備	4カ所 (令和5年度)	6カ所 (令和14年度)	第六次総合計画 ※駅東地区・日出谷地区
コンパクト	市街地への居住率	$61,755 \div 74,448 = 82.95\%$ (令和6年1月)	$60,251 \div 71,397 \doteq 84.39\%$ (令和14年1月)	第六次総合計画 ※人口ビジョン 算式) = (既成市街地+坂田地区+日出谷地区) ÷ 総人口
スマート	検討中			※スマート【事業一覧】内 における「日出谷地区公共 施設等整備事業」の進捗と あわせて設定する。
レジリエント	拠点施設における再生可能エネルギーの 活用など災害時にも途絶えない電源を確 保した施設の整備数	3カ所 (令和5年度)	5カ所 (令和14年度)	第六次総合計画 ※駅東地区・日出谷地区